

# 養護教諭が作成する保健だよりに関する検討

—— 養護教諭を対象とした実態調査を通して ——

松田 芳子・清田 由貴\*・川崎 志帆\*\*・味園あずさ\*\*\*・  
大島 望美\*\*\*\*・河野 彩\*\*\*\*\*・小泊 千紘\*\*\*\*\*

## A study on creation of health information by *Yogo* teachers: through a fact-finding survey of *Yogo* teachers

Yoshiko Matsuda, Yuki Kiyota, Shiho Kawasaki, Azusa Misono,  
Nozomi Ooshima, Aya Kawano and Thihiro Kodomari

(Received September 30, 2020)

キーワード：保健だより 養護教諭 実態調査

### I. はじめに

近年、多様化する社会の中で、子どもたちの心身の健康問題が複雑化・深刻化してきており、心身の健康問題に対する対応の充実が求められている。このような中で、平成 21 年に改正された学校保健安全法において、養護教諭を中心とした組織的な健康相談、健康観察、保健教育を行うことが明記された。

養護教諭が行う保健指導の機会や方法は多様であり、保健だよりも紙面による保健指導の手段の一つである。保健だよりは、法令等によってその発行が義務付けられているわけでもない。保健だよりの歴史的な分析はほとんどなされておらず、保健だよりのはじめは定かではないが、1957 年に雑誌「健康教室」に保健だよりがはじめて掲載され、その後 1958 年に学校保健法が、1959 年に学校安全法が制定された頃から、保健だよりが情報配信を行う方法として活用されるようになっていったと推察される<sup>1) 2) 3)</sup>。

難波らが 1987 年に行った小学校・中学校・高等学校を対象に行った「保健だよりに関する実態調査」<sup>4)</sup>によると、9 割を超える養護教諭が保健だよりを発行していることが分かっている。法令等によってその発行が義務づけられているわけでもないのに、なぜ多くの養護教諭が保健だよりを発行しているのか、A 県内で養護教諭として勤務している者を対象に、養護教諭が発行する保健だよりの実際や保健だよりに対する養護教諭の意識等についてアンケート調査を実施し、検討を行った。また、筆者らは、養護実習で保健だよりを作成したが、配付した保健だよりが読まれているのか、十分な確認ができなかった。そこで、保健だよりの評価についても検討することにした。

### II. 研究方法

#### 1. 調査対象、調査方法及び調査時期

対象は、A 県内で養護教諭として勤務している者で、無記名による選択式・自由記述式の質問紙調査用紙を平成 25 年 10 月中旬～11 月下旬にかけて 317 名に送付し、計 236 人（小学校 139 人、中学校 61 人、高等学校 24 人、特別支援学校 10 人、その他 2 人）から回答を得ることができた。回収率は 74.4%であった。

#### 2. 調査内容

調査内容は（1）保健だより発行の実際、（2）保健だよりに対する養護教諭の意識等、（3）保健だよりに対する評価など計 20 問である。調査内容の作成にあたっては、佐藤・小浜の「保健だより」に関する一考

\* 熊本大学教育学部卒業生    \*\* 宮崎県椎葉村立不土野小学校    \*\*\* 福岡市立壱岐丘中学校  
\*\*\*\* 長崎市立池島中学校    \*\*\*\*\* 熊本市立秋津小学校    \*\*\*\*\* 長崎県小値賀町立小値賀小学校

察<sup>3)</sup>や松岡の「保健だよりの作り方」<sup>5)</sup>を参考にした。

### 3. 分析方法

データ集計及び統計解析には、Microsoft Office Excel 統計 2013 を用いた。小学校、中学校、高等学校の校種間の回答の比較については、 $\chi^2$  検定を用い有意水準は 5% とした。自由記述の分析は、記述内容の内容分析を行い、記述内容を分類し、大カテゴリー名【 】と小カテゴリー名（ ）を付けた。

### 4. 倫理的配慮

調査にあたり、学校長及び養護教諭宛てに研究の目的、概要、アンケート結果の取り扱いにおけるプライバシーの保護等について文書で説明し、回収できたアンケートをもって研究協力の同意を得たものとし、分析対象とした。

## Ⅲ. 結果

### 1. 対象者のプロフィール

現任校の校種では、小学校が 139 人 (58.9%)、中学校が 61 人 (25.8%)、高等学校が 24 人 (10.2%)、特別支援学校が 10 人 (4.2%)、その他が 2 人 (0.8%) であり、小学校または中学校に勤務している養護教諭が 8 割以上を占めていた。

### 2. 養護教諭が作成する保健だよりの実際について

表 1 は、結果をまとめたものである。保健だよりを調査対象者は全員作成していた。定期号の発行の頻度は、全体では「毎月」が 79.2% であり、多くの養護教諭が保健だよりを定期的に発行していることが分かった。小学校、中学校では「毎月」、高等学校では「毎月」と「2 ヶ月に 1 回」が多く、高等学校に比べて小学校、中学校が発行する頻度が高いことが分かった。読む対象については、「児童生徒と保護者」は小学校 95.0%、中学校 86.9%、高等学校 41.7% であり、「生徒」は高等学校 37.5% であり、小学校、中学校より多かった。保健だより定期号の発行内容については、小学校、中学校では「児童生徒の実態」と「月目標にそって」が多く、高等学校では「生徒の実態」と「生徒の興味・関心」が多かった。作成上苦心していることについては、全体では「資料選定」52.1%、「具体的内容」45.3%が多かった。また、保健だより作成と保健委員の関わりについては、高等学校 91.7%が、小学校 18.7%、中学校 47.5%より有意に多かった ( $p<0.01$ )。また、配付時の説明を「している」という回答は全体で 48.7% であり、校種間で有意差はみられなかった。掲示の有無については、「している」という回答が小学校 94.2%、中学校 95.1%、高等学校 75.0% であり、校種間で有意差がみられた ( $p<0.01$ )。臨時号発行の有無については、「発行している」が全体では 86.9% であった。教職員向け保健だより発行の有無については、「発行している」が全体では 22.5% であった。

### 3. 保健だよりに対する養護教諭の意識（目的、工夫、思い、エピソード等）について

保健だより作成の目的について、複数回答の選択肢で回答を求めた結果は表 2 のとおりである。

全体では、「家庭への働きかけ・交流のため」90.3%が最も多く、次に「保健室（子ども）の実態を知らせるため」「保健指導の資料として活用するため」がどちらも 87.7%、次いで「養護教諭の願いや思いを伝えるため」78.4%であった。

保健だよりに関する工夫・思い・エピソードについて自由記述について回答を求め、全体で 177 人から回答が得られた。工夫していることについては、【内容の工夫に関すること】 $n=107$ （学校や児童・生徒の実態を取り入れる）（保健指導としての保健だよりとする）（テーマ設定に関する工夫）等、【内容以外で工夫していること】 $n=77$ （イラスト・写真・グラフ）（文字）（手書きのこだわり）等、【保健だよりの活用法に関すること】 $n=42$ （保健だよりの様式）（掲示板の活用）等があげられた。【内容の工夫に関すること】について具体的には、「健康の時間（保健指導）や保健学習で用いた教材を保健だよりに掲載するようにしている。復習的に何回も目に触れることで意識ができると思う」「アンケートや健康診断の結果をグラフ化して載せるようにしている」「子どもたちが楽しく学べるようにクイズを出して正解者を提示したり、体験できる内容を一つ入れるようにしている」等、（学校や児童・生徒の実態を取り入れる）（保健指導としての保健だよりとする）ようにしていることがあげられていた。

【保健だよりの活用法に関すること】について具体的には、「学級での保健指導資料として活用してもらう」「子ども向けの保健だよりを発行しているが、学級で担任の先生が保健だよりを活用して指導してもらえよう、毎回朝会の時に、今月の保健だよりのポイントは・・・と紹介して配布している」「学校医、薬剤師さん

表1 保健だより作成の実態

質問項目	カテゴリー	全体 n=236		小学校 n=139		中学校 n=61		高等学校 n=24		特別支援学校 n=10		その他 n=2		小中高間の有意差
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
保健だより作成の有無	ア している	236	100	139	100.0	61	100.0	24	100.0	10	100.0	2	100.0	n.s.
	イ していない	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
定期号を発行する頻度	ア 毎月	187	79.2	115	82.7	51	83.6	12	50.0	10	100.0	0	0.0	**
	イ 2ヶ月に1回	21	8.9	9	6.5	2	3.3	9	37.5	0	0.0	0	0.0	
	ウ 学期に1回	3	1.3	0	0.0	2	3.3	1	4.2	0	0.0	0	0.0	
	エ その他	24	10.2	15	10.8	5	8.2	2	8.3	0	0.0	2	100.0	
	無回答	1	0.4	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
定期号の発行内容 ※複数回答	ア 月行事を主に	104	44.1	58	41.7	31	50.8	12	50.0	3	30.0	0	0.0	n.s.
	イ 月目標にそって	171	72.5	116	83.5	42	68.9	6	25.0	6	60.0	1	50.0	**
	ウ 児童生徒の実態	197	83.5	116	83.5	55	90.2	18	75.0	7	70.0	1	50.0	n.s.
	エ 児童生徒の興味・関心	110	46.6	54	38.9	36	59.0	17	70.8	2	20.0	1	50.0	**
	オ 教職員からの要望	16	6.8	10	7.2	4	6.6	2	8.3	0	0.0	0	0.0	n.s.
	カ 保護者からの要望	10	4.2	8	5.8	1	1.6	0	0.0	1	10.0	0	0.0	n.s.
	キ その他	29	12.3	16	11.5	7	11.5	4	16.7	2	20.0	0	0.0	n.s.
	無回答	2	0.8	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	—
臨時号の発行の有無	ア はい	206	87.3	130	93.5	55	90.2	14	58.3	7	70.0	0	0.0	**
	イ いいえ	22	9.3	5	3.6	6	9.8	8	33.3	2	20.0	1	50.0	
	無回答	8	3.4	4	2.9	0	0.0	2	8.3	1	10.0	1	50.0	
読む対象	ア 児童生徒の保護者	207	87.7	132	95.0	53	86.9	10	41.7	10	100.0	1	50.0	**
	イ 児童生徒	14	5.9	1	0.7	3	4.9	9	37.5	0	0.0	1	50.0	
	ウ 保護者	4	1.7	3	2.2	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	エ その他	10	4.2	3	2.2	3	4.9	5	20.8	0	0.0	0	0.0	
	無回答	1	0.4	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
制作にかかる時間	ア 1日	51	21.6	33	23.7	16	26.2	0	0.0	2	20.0	0	0.0	**
	イ 1週間未満	152	64.4	94	67.6	40	65.6	9	37.5	7	70.0	2	100.0	
	ウ 1～2週間	18	7.6	4	2.9	3	4.9	12	50.0	0	0.0	0	0.0	
	エ その他	11	4.7	5	3.6	2	3.3	3	12.5	0	0.0	0	0.0	
	無回答	4	1.7	3	2.2	0	0.0	0	0.0	1	10.0	0	0.0	
保健だより作成時に 参考にしているもの ※複数回答	ア 養護教諭専門月刊誌	219	92.8	129	92.8	56	91.8	23	95.8	9	90.0	2	100.0	n.s.
	イ 新聞	101	42.8	54	38.9	31	50.8	12	50.0	2	20.0	2	100.0	n.s.
	ウ 雑誌・図書	113	47.9	58	41.7	34	55.7	13	54.2	7	70.0	1	50.0	n.s.
	エ インターネット	134	56.8	73	52.5	36	59.0	17	70.8	7	70.0	1	50.0	n.s.
	オ その他	44	18.6	31	22.3	11	18.0	1	4.2	0	0.0	1	50.0	n.s.
保健だよりの作成方法	ア 手書きとパソコンの併用	78	33.1	47	33.8	16	26.2	15	62.5	0	0.0	0	0.0	**
	イ 手書き	22	9.3	14	10.1	3	4.9	5	20.8	0	0.0	0	0.0	
	ウ パソコン	133	56.4	75	54.0	42	68.9	4	16.7	10	100.0	2	100.0	
	エ その他	2	0.8	2	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	無回答	1	0.4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
保健だより作成時に 苦心していること ※複数回答	ア 資料収集	123	52.1	74	53.2	32	52.5	11	45.8	5	50.0	1	50.0	n.s.
	イ テーマの選定	70	29.7	41	29.5	11	18.0	13	54.2	3	30.0	2	100.0	**
	ウ イラスト・カット・レイアウト	67	28.4	39	28.1	18	29.5	8	33.3	2	20.0	0	0.0	n.s.
	エ 具体的な内容	107	45.3	55	39.6	34	55.7	14	58.3	4	40.0	0	0.0	*
	オ その他	39	16.5	26	18.7	5	8.2	6	25.0	2	20.0	0	0.0	n.s.
	無回答	2	0.8	1	0.7	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
保健だより作成と 保健委員の関わりの有無	ア ある	79	33.5	26	18.7	29	47.5	22	91.7	0	0.0	2	100.0	**
	イ ない	156	66.1	112	80.6	32	52.5	2	8.3	10	100.0	0	0.0	
	無回答	1	0.4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
配布の際の説明の有無	ア している	115	48.7	72	51.8	25	41.0	15	62.5	2	20.0	1	50.0	n.s.
	イ していない	117	49.6	63	45.3	36	59.0	9	37.5	8	80.0	1	50.0	
	無回答	4	1.7	4	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
保健だよりを配布する人 ※複数回答	ア 学級担任	199	84.3	133	95.7	34	55.7	21	87.5	10	100.0	1	50.0	**
	イ 保健委員	9	3.8	0	0.0	3	4.9	5	20.8	0	0.0	1	50.0	**
	ウ 日直（係）	45	19.1	17	12.2	26	42.6	1	4.2	0	0.0	1	50.0	**
	エ その他	15	6.4	3	2.2	10	16.4	2	8.3	0	0.0	0	0.0	**
保健だよりの掲示の有無	ア している	216	91.5	131	94.2	58	95.1	18	75.0	8	80.0	1	50.0	**
	イ していない	20	8.5	8	5.8	3	4.9	6	25.0	2	20.0	1	50.0	**
保健だよりの保管方法 ※複数回答	ア 紙媒体の冊子	207	87.7	122	87.8	50	82.0	23	95.8	9	90.0	2	100.0	n.s.
	イ 電子化・データ	171	72.5	97	69.8	52	85.3	13	54.2	7	70.0	2	100.0	**
	ウ 保管していない	3	1.3	3	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	n.s.
	エ その他	3	1.3	3	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	n.s.
	無回答	1	0.4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
教師向けの保健だより 発行の有無	ア している	53	22.5	26	18.7	20	32.8	7	29.2	0	0.0	0	0.0	n.s.
	イ していない	181	76.7	111	79.9	41	67.2	17	70.8	10	100.0	2	100.0	
	無回答	2	0.8	2	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
ホームページ掲載の有無	ア している	20	8.5	13	9.4	1	1.6	4	16.7	2	20.0	0	0.0	n.s.
	イ していない	215	91.1	125	89.9	60	98.4	20	83.3	8	80.0	2	100.0	
	無回答	1	0.4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	

 $\chi^2$ 検定：\*p<0.05 \*\*p<0.01 n.s.有意差なし

表2 保健だより作成の目的

質問項目	カテゴリー	全体 n=236	
		人数	%
保健だよりを作成する目的	ア 保健指導の資料として活用するため	207	87.7
※複数回答	イ 保健室（子ども）の実態を知らせるため	207	87.7
	ウ 保健室経営の重点目標を具現化するため	107	45.3
	エ 養護教諭の願いや思いを伝えるため	185	78.4
	オ 家庭への働きかけ・交流のため	213	90.3
	カ 教職員に働きかけるため	118	50.0
	キ 養護教諭の実践の記録とするため	19	8.1
	ク 学校の広報誌であるため	25	10.6
	ケ 書くことがあたりまえだと思っているため	42	17.8
	コ あまりその意味を考えたことがない	2	0.9
	サ その他	17	7.2
	無回答	0	0.0

に対して、学校の様子、保健室利用状況からみえてくる健康課題、感染症の発生状況、日常生活の中での気づき等を知っていただくために毎月作成したものを送っているが、以前歯科医院の待合室に掲示されている例があり、地域への情報発信の広がりを感じた」等があげられた。

保健だよりへの思いについて、【保健だよりへの思い・期待】n=51（養護教諭の思いを伝える）（保健だよりの意義・価値を伝える）等、【周囲からの反応に関すること】n=121（保護者からの反応）（児童・生徒からの反応）（教職員からの反応）等があげられ、読み手からの反応が保健だより作成のさらなる意欲につながっていることなどがあらわれていた。

【保健だよりへの思い・期待】について具体的には、「養護教諭としての思い、日頃子ども達と接する中で感じる事など、なるべく自分の言葉で伝えられればと思っている」「保健だよりは保健室からの発信の一手段であり、養護教諭の保健室経営などの思いを伝えるツールであると思う」「保健だよりは、教育実践の一つとして行っている」「自分の執務してきた記録簿のような存在に思っている」等があげられていた。【周囲からの反応に関すること】について具体的には、「子どもたちが保健だよりの内容の話をしてきたり、掲示してあるものを読んでくれていた時など反応が返ってくるとうれしいと思う」「保護者の方から、何年分かをずっと保管していますと言われたことがあり、その時から、保健だよりに対する思いが強くなった」「職員室で保健だよりの内容が話題にあがると嬉しいものである」等があげられていた。

その一方で、【現実・反省・課題に関すること】n=64（マンネリ化）（多忙による負担感）（保健だよりに対する苦手意識）（読まれていない現実）等の意見もあげられた。その他、各校種において様々なエピソードがあげられた。

#### 4. 保健だよりに対する評価について

保健だよりに対する読み手からの評価を確認しているかについて、回答を求めた。評価については、アンケート調査、聞き取り調査、保健だよりに感想欄を設ける、また普段の会話（例：読んでいるかどうか、ためになったかどうか、内容についての意見等）も評価の手段に加えるものとした。「確認している」と答えた回答は、全体で51.3%と半数程度であった。評価の確認対象を「児童生徒」、「教職員」、「保護者」に分けると、「児童生徒」41.1%、「教職員」29.7%、「保護者」26.7%であり、「児童生徒」に対して評価を確認しているという選択率が高かった。また、評価の確認方法としては、児童生徒・教職員に対しては「普段の会話から」確認するという選択率が最も多いのに対し、保護者に対しては「保健だよりに感想欄を設ける」ことで確認しているという選択率が最も高かった。確認している理由について自由記述で回答してもらったところ、児童生徒については、【保健だよりに対する児童の実態把握のため】【次号作成の参考のため】【保健指導・コミュニケーションの一環として】等があげられた。教職員については、【活用状況について知るため】があげられた。保護者については、【読んでもらっているかの確認】【保護者の思いを知るため】があげられた。一方、確認しない理由としては、【確認したいがゆとりがない状況】【話題に上の程度で済ませている】【評価をすることを考えなかった】【手段がない】である。



#### IV. 考察

法令等によってその発行が義務付けられているわけでもない保健だよりであるが、従来から多くの養護教諭が保健だよりを発行してきた<sup>1) 2) 3)</sup>。筆者らの調査でも、対象者の全員が保健だよりを発行していた。

鎌塚らが<sup>6)</sup> 関東、東海地区の小学校養護教諭を対象に本調査と同年に実施した調査と比べると、作成者、発行頻度などはほぼ同様の結果であった。鎌塚らの調査は小学校対象のため、読み手の対象は、92.6%が「保護者」向けに作成されていた。本調査では、小学校は「児童と保護者」が95.0%であった。

本調査の保健だより作成の目的では、「家庭への働きかけ・交流のため」「保健室（子ども）の実態を知らせるため」「養護教諭の願いや思いを伝えるため」「教職員に働きかけるため」等が多くあげられていた。瀬口らがK県の小学校、中学校養護教諭を対象とした調査<sup>7)</sup>でも、保健だよりを健康情報の発信源、疾病予防、健康意識を高めるため等の保健指導の一環として作成していることが報告されている。尾花<sup>8)</sup>は、保健だよりは、養護教諭の仕事に対する取り組み方や意欲・情熱はもちろん、日頃の学校保健に対する考え方で伝わるものであると述べている。さらに保健だよりは、「健康づくり」に関する学校と家庭のパイプ役を果たすことを述べている。そのためにも保健だよりが一方通行ではなく、双方向の保健だよりとなる方策が求められる。

中島らが<sup>9)</sup> N県の高等学校養護教諭を対象に本調査と同年に実施した調査は、保健だよりの評価について着目して調査している。その結果、養護教諭の8割は保健だよりの評価は必要と考えているにもかかわらず、6割の人は評価していないという結果であった。評価していない人の理由は、「方法がわからない」「評価できない」「時間がない」等であった。評価方法は、生徒に感想を聞く、教職員に感想を聞くが多く、アンケート調査や学校の自己評価のなかで行うは少数であった。鎌塚らの調査でも、評価の方法、評価者について回答を求めているが、「モニター」67.2%、「アンケート」12.5%であった。評価者については、「児童のみ」78.8%、「保護者のみ」4.5%、「教職員」が12.1%であった。

本調査でも、保健だよりに対する読み手からの評価を確認しているかについて、全体で51.3%と半数程度であった。評価の確認対象を「児童生徒」「教職員」「保護者」に分けると、「児童生徒」「教職員」「保護者」の順に選択率が高かった。評価の方法としては、児童生徒、教職員からは日常の会話がが多く、保護者からは保健だよりに感想欄を設けるなどが多かった。確認しない理由としては、【確認したいがゆとりがない状況】【話題に上の程度で済ませている】【評価をすることを考えなかった】【手段がない】などがあげられ、中島らの調査結果と同様の傾向にあった。

しかし、評価の確認をしているという回答は半数程度であるが、保健だよりに関する工夫・思い・エピソードについての自由記述の結果にあらわれているように、（学校や児童・生徒の実態を取り入れる）（養護教諭の思いを伝える）ことによって、児童生徒、保護者、教職員からの反応につながり、保健だよりを通して、健康についての情報発信とともに家庭とのキャッチボールの手段として保健だよりが活用されていることが分かった。また、【周囲からの反応に関すること】の具体的記述にも「子どもたちが保健だよりの内容の話をしてきたり、掲示してあるものを読んでくれていた」「保護者の方から、何年分かをずっと保管していますと言われたことがある」「職員室で保健だよりの内容が話題にあがると嬉しいものである」等の内容にもあらわれているように、子ども、保護者、教職員の反応を確認しながら保健だよりに向き合っていることが把握された。

林<sup>10) 11)</sup>は、保健だよりの発行目的を明確に持ち、発行計画や事後の評価、教職員に対しても発行の意義や目的、内容について共通理解され保健指導に活用されることが重要であることを述べている。

保健だよりがその学校の実態や取り組みを載せた「その学校だからこその生きた保健だより」となるように、発行目的や発行計画、事後評価（自己評価・他者評価）、次年度へのフィードバックができるように、計画的な保健だよりの作成が大切であろう。

また、情報化社会の現代、インターネットやSNSなど情報手段が多種多様であり、紙面による保健だよりの他、Webによる保健だよりなど情報発信の手段もこれからますます多様化していくと予想される。簡単に様々な健康情報が得られる情報環境の中、「その学校だからこその生きた保健だより」となる「紙面による保健だより」の教育的意義を常に問い続けていくことが必要であろう。

本調査より、保健だよりの実際について、様々な工夫をしながら、読む対象にあわせた保健だよりが作成

されていることが分かった。また、評価に関しては、約半数の学校では何らかの方法で確認されている一方で、様々な理由により確認ができていない学校もあるということが分かった。より読まれる保健だよりにするためには、内容やレイアウトのさらなる工夫は勿論だが、配付時の説明や掲示の活用も効果的かと考える。評価については、学校の実態に合わせて、普段の会話の中で保健だよりについて意識的に意見を求めたり、学校評価アンケートに項目を入れたりすることも一つの方策ではないかと考える。

本研究において、学校の広報物である保健だよりが、学校と家庭をつなぎ、健康教育を推進する上で大きな意義を持つものであることを再確認した。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休校、学校再開とこれまでにない対応が求められている。そして WITH コロナの中での学校の新たな生活様式、新たな日常が求められている。このような状況の中、学校と家庭をつなぐ保健だよりが新型コロナウイルス感染症に関する情報発信、感染症予防教育に大きく活用され、HP にアップされた保健だよりも多くみうけられる。保健だよりの果たす役割について、今後さらに研究が必要である。

## V. まとめ

A 県内で養護教諭として勤務している者を対象に、養護教諭が発行する保健だよりの実際や保健だよりに対する養護教諭の意識や思い、保健だよりの評価等についてアンケート調査を実施し検討を行った結果、およそ、以下のようにまとめられる。

### 1. 保健だよりの実際について

調査対象者の全員が保健だよりを発行していた。定期号の発行の頻度は、全体では「毎月」が 79.2% であり、多くの養護教諭が保健だよりを定期的に発行していることが分かった。「発行内容」については、「児童生徒の実態」と「月目標にそって」「生徒の興味・関心」によるものが多かった。「読む対象」「保健だより作成と保健委員の関わり」「掲示の有無」などに校種による特徴もみられた。

### 2. 保健だよりに対する養護教諭の意識（目的、工夫、思い、エピソード等）について

保健だより作成の目的について、「家庭への働きかけ・交流のため」90.3%、次に「保健室（子ども）の実態を知らせるため」「保健指導の資料として活用するため」がどちらも 87.7%、次いで「養護教諭の願いや思いを伝えるため」78.4%であった。自由記述により回答を求めた保健だよりに対する工夫、思い、エピソード等について、【内容の工夫に関すること】【内容以外で工夫していること】【保健だよりの活用法に関すること】【保健だよりへの思い・期待】【周囲からの反応に関すること】【現実・反省・課題に関すること】等の内容があげられた。

### 3. 保健だよりに対する評価について

保健だよりに対する読み手からの評価を確認しているかについて、「確認している」と答えた回答は、全体で 51.3% と半数程度であった。評価の確認対象を「児童生徒」「教職員」「保護者」に分けると、「児童生徒」41.1%、「教職員」29.7%、「保護者」26.7% であり、「児童生徒」に対して評価を確認しているという選択率が高かった。評価の確認方法としては、児童生徒・教職員に対しては「普段の会話から」確認するという選択率が最も多いのに対し、保護者に対しては「保健だよりに感想欄を設ける」ことで確認しているという選択率が最も高かった。確認しない理由としては、【確認したいがゆとりがない状況】【話題に上る程度で済ませている】【評価をすることを考えなかった】【手段がない】であった。

## VI. 謝辞

本研究にあたり、アンケート調査・資料提供にご協力くださいました A 大学教育学部養護教諭養成課程卒業生の皆様並びに A 県内の養護教諭の皆様、養護教諭関係者、A 市教育委員会担当者の方々に深く感謝いたします。なお、本論文の要旨を、日本養護教諭教育学会第 23 回学術集会で口頭発表した。

## VII. 参考文献

- 1) 鈴木裕子：学校保健教育としての保健だより，東山書房，健康教室 2011 年 10 月臨時増刊号，62 巻 13 号，10-11，2011

- 2) 養護教諭制度 50 周年記念誌編集委員会養護教諭制度 50 周年記念誌, 73, ぎょうせい, 1991
- 3) 佐藤佳代子・小浜明:「保健だより」に関する一考察:雑誌「健康教室」に掲載された保健だよりの機能の推移と 1987・2010 年の製作実態に関する比較, 仙台大学大学院スポーツ科学研究科研究修士論文集 12, 51-58, 2011
- 4) 難波英子・中桐佐智子・津島ひろ江・松岡弘:保健だよりに関する実態調査, 学校保健研究, 29 (11), 543-549, 1987
- 5) 松岡弘:「保健だより」発行の現状, 保健だよりの作り方, 10-19, ぎょうせいヘルス・ライブラリー <18>, 1983
- 6) 鎌塚優子・林典子・鈴木恵子・下村淳子・井澤昌子:小学校における養護教諭の保健だより作成の実態, 静岡大学教育学部研究報告人文・社会・自然科学編 66, 225-238, 2016
- 7) 瀬口久美代・松田芳子:学校と家庭をつなぐ「保健だより」の活用に関する一考察, 日本養護教諭教育学会第 20 回学術集会抄録集, 118-119, 2012
- 8) 尾花美恵子:1 章「保健だより」の果たす役割, 三木とみ子編著, 保健だより 作り方生かし方を知りたい, 7-9, 東洋館出版社, 1996
- 9) 中島節子・池田みすゞ・長谷川久江・早川維子・門川由紀江:高等学校における保健だよりに関する調査, 松本大学研究紀要第 13 号, 73-79, 2015
- 10) 林典子:保健活動を Check しよう!保健便り, 心とからだの健康, 69-71, 健学社, 2009
- 11) 林典子・下村淳子・鎌塚優子他:第 6 章 啓発活動 1 保健だよりとはスキルアップ養護教諭の実践力 レッツチェック「養護教諭の活動」, 92-93, 東山書房, 2014